

Ophthalmic Sanjo Group

ANNUAL REPORT

年次報告書：2025.1 ▶ 2025.12

2025



飛躍



未来へ跳ぶ、医療の力

“飛躍”とは、積み重ねてきた歩みが静かに次の高みへとつながる瞬間です。

2025年を、眼科三条会は次の段階への“飛躍”の年として、確かな実感とともに迎えました。

創設から育んできた連携と信頼が、病院やクリニックの枠を越え、

より強固な医療ネットワークとして形を帯びはじめています。

臨床・教育・手術支援のそれぞれで専門性が交差し、若手の育成も加速。

互助システムをはじめとする支援体制も整い、地域医療を支える基盤が一層充実しました。

こうした広がりや、一人ひとりの努力が組織の力へと昇華した結果です。

私たちはその上昇気流を皆さまと共につくりながら、

これからも眼科医療の発展に向けて前進していきます。

「日本医療の持続性に眼科三条会が貢献できること」

日本の医療は今、少子高齢化や医師の地域偏在、そして医療費や医療機器コストの上昇など、さまざまな課題に直面しています。当会は、勤務医と開業医を結ぶ民間医局として、白内障を中心とした術者の定期的な手配や専門外来の提供を通じ、患者さんが住み慣れた地域で高度医療を受けられる仕組みを確立してきました。また、医療機器コストの抑制を目的に、共同購入や機器互助の取り組みも進めています。さらに、日々の診療からアンメットニーズを見出し、企業と連携して新しい技術開発に挑み、日本発の医療技術を世界へ広げることを目指しています。

こうした活動の原動力となるのは、若い医師の力です。研修基幹病院と連携し、次世代の術者や臨床研究を担うClinician Scientistを地域から育成しています。若手が活躍することで上級医師が新たな挑戦に取り組むという好循環が生まれ、この循環こそが当会の持続性を支える要です。

今後は、治療中心の医療から予防医療への転換が進む中で、アイフレイル対策など地域と連携した予防活動を強化し、高齢になっても高い視機能を維持することで健康寿命の延伸に貢献してまいります。昨今は近視進行予防治療など、自由診療が徐々に眼科領域でも拡大してきています。会員施設の自由診療の拡充を通じて、白内障に過度に依存しない経営基盤の構築と患者満足度の両立を図ります。

勤務医と開業医が力を合わせ、地域に根ざした医療を支えることで、日本医療の持続性に貢献していくこと——それが眼科三条会の使命です。今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表理事

小島 隆司

KOJIMA, Takashi MD, PhD

名古屋アイクリニック 院長
医学博士

●屈折矯正 ●角膜 ●白内障 ●ドライアイ
●コンタクトレンズ ●眼科専門医

「眼科三条会の協働体制と今後の展望について」

日頃より当会の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

私たちが目指す連携の姿を改めて共有させていただきます。

当会では、それぞれの分野で経験を積んだ医師が、各施設へ赴き、手術や外来診療を行っております。

開業医の先生方にとっては、自院で専門治療を患者さまへ提供できるという大きなメリットがあり、私たち医師にとっても自らの技量を存分に発揮しながら地域医療に貢献できる、まさにウィンウィンの関係が形成されています。さらに、この協働体制こそが若い先生方を惹きつける力となっています。技術を磨き成長したいという志をもつ若手医師が当会に入会し修練を積むことで、当会全体としてのマンパワーは充実し、組織としての底力も確かなものとなります。

今後も、各施設の先生方との連携をより強固なものとし、地域眼科医療の質向上に一層寄与できるよう努めてまいります。何卒、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。



理事

吉田 則彦

YOSHIDA, Norihiko MD

岐阜赤十字病院 眼科 主任部長

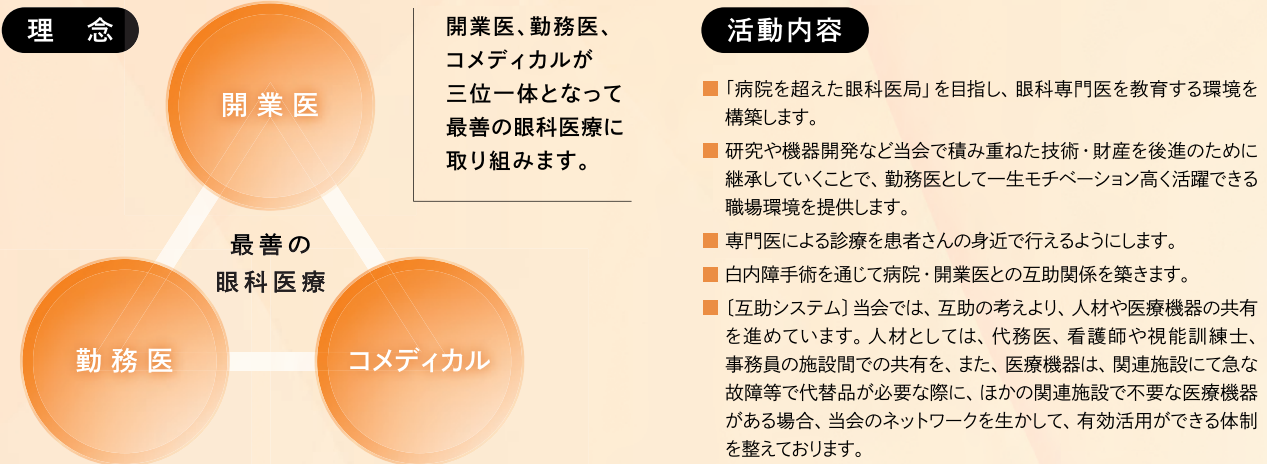
●網膜硝子体 ●白内障 ●眼科専門医

眼科三条会の理念・活動内容・ 会員制度・CSR活動報告

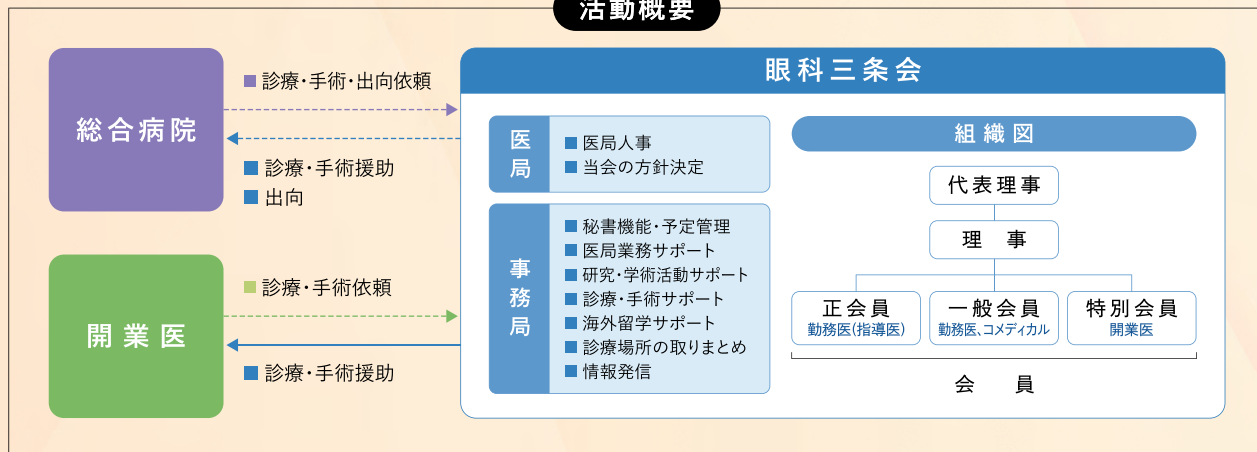


「眼科三条会」とは

2022年に眼科医の有志によって設立された会員制の組織であり、医療資源を共有、継承し、眼科医療を発展させることを目的としています。現在下記の組織図のように、勤務医、開業医、コメディカルが会員として参加し、様々な活動を行っています。



活動概要



CSR活動報告

能登半島地震復興支援寄付

日本赤十字社の「令和6年能登半島地震災害義援金(石川県)」,また、企業版ふるさと納税での「令和6年能登半島地震(石川県珠洲市)」に復興支援金を寄付させていただきました。

円錐角膜治療の支援活動

小島隆司医師が理事として活動しております「円錐角膜支援の会」にて、未成年の角膜クロスリンキング治療(進行予防治療)の治療費を支援すべくクラウドファンディングを立ち上げましたので、寄付させていただきました。

一般社団法人円錐角膜支援の会

<https://keratoconus-aid.or.jp/>

クラウドファンディングの詳細

<https://for-good.net/project/1001955>



2025年 会員サポート実績

医師

■ 執刀医サポート：1病院、18診療所へのサポート

月のオペ回数	1回	2回	4回	隔月に2回 (2か月おきに2回)	2か月に1回	3か月に1回
施設数	6	7	2	1	1	2

■ 定期代務サポート

施設名	月		火		水		木		金		土	
	A M	P M	A M	P M	A M	P M	A M	P M	A M	P M	A M	P M
A 施設					毎週		毎週	毎週				
B 施設											月1回	
C 施設	毎週		毎週		毎週2名	毎週			毎週		毎週	
D 施設			月3回						月3回			
E 施設		毎週	毎週	毎週	毎週	毎週	毎週	毎週	月2回	月1回		
F 施設					月1回							
G 施設	毎週	毎週			毎週	毎週			毎週	毎週	月2回	
H 施設							毎週					
I 施設	毎週											

■ 緊急代務サポート

A 診療所	院長先生の体調不良により、13日/年の代務医サポート。
B 診療所	院長先生の体調不良により、3日/年の代務医サポート。
C 診療所	院長先生のご都合のため、1日/年の代務医サポート。

看護師

■ 手術サポート：1病院、15診療所に対して、1～3名のサポート

サポート人数	1人	1～2人	2人	3人
施設数	10	1	4	1

視能訓練士

■ 定期サポート：2病院、6診療所に対して1名のサポート

	月	火	水	木	金	土
A M	A 診療所	C 診療所	F 病院	G 診療所	B 診療所	G 診療所
	B 診療所				C 診療所	H 診療所
P M	B 診療所	D 病院	F 病院	E 診療所	B 診療所	
		E 診療所			D 病院	

■ 人材不足ヘルプサポート

A 病院	2025年1月～4月：4名体制で月5日、1日1名のサポート
B 診療所	2025年5月～：4名体制で月3日、1日1名のサポート

事務員

■ 人材不足ヘルプサポート

A 診療所	2025年5月～12月：3名体制で月7日、1日に1名のサポート
B 診療所	2025年7月～10月：2名体制で月3日、1日に1名のサポート

手術件数

■ 眼科三条会 所属医師の勤務施設手術件数

	白内障	網膜硝子体	硝子体注射
2023年	7,656件	323件	1,052件
2024年	7,842件	451件	1,185件
2025年	8,167件	519件	1,125件

※上記件数には、JCHO中京病院、JCHO可児とこの病院の件数は含まれておりません。※白内障には、緑内障、網膜硝子体との同時手術を含みます。

会員向け その他サポートのご案内

特殊症例 IOL 相談サポート

当会では、レーシックの後や特殊症例のIOL度数計算などお困りの施設に対応するため、特殊症例IOL相談窓口を設けております。お困りの時点で窓口までご連絡いただければ、名古屋アイクリニックの視能訓練士と連携し、的確なアドバイスをいたします。

ご相談窓口・お問合せ先 [メール iol_soudan@ccm.or.jp](mailto:iol_soudan@ccm.or.jp) FAX 052-291-4451

過去のご相談例

- ① 眼軸長の強膜内固定術の度数決定について
- ② トーリック眼内レンズの適応について
- ③ RK後の眼内レンズ度数決定について
- ④ レーシック後の眼内レンズ度数決定について

LINE 相談窓口

専門医相談グループ

症例で困った際のご相談窓口【専門医の相談グループLINE】を開設しております。お困りの時点でご相談をいただきますと、各専門分野の医師より適切なアドバイスをさせていただきます。ぜひ、ご活用くださいませ。

視能訓練士専用相談オープンチャット

視能訓練士の皆さま専用のLINEオープンチャットであり、より気軽に情報交換やお困りの際の意見交換をしていただける場となっております。



眼科三条会ホームページ

<https://sanjogroup.jp/>



眼科三条会Facebook

<https://www.facebook.com/Sanjogroup>



所属医師の 紹介

加賀 達志

KAGA, Tatsushi MD, PhD

JCHO 中京病院 眼科 診療部長
専門研修プログラム統括責任者
医学博士

- 網膜硝子体
- 眼科専門医



三田村 麻里

MITAMURA, Mari MD

岐阜赤十字病院 眼科

- 白内障
- 視機能・色覚
- 眼科専門医



岡村 周子

OKAMURA, Chikako MD

岐阜赤十字病院 眼科

- 小児・斜視弱視
- 眼科専門医



スタッフ 情報

柳瀬 弘美

YANASE, Hiromi

看護部 課長
看護師



渡邊 三訓

WATANABE, Mitsunori MD

JCHO 中京病院 眼科 医長

- 緑内障
- 白内障
- 眼科専門医



松田 泰輔

MATSUDA, Taisuke MD, PhD

JCHO 中京病院 眼科 医長
医学博士

- 網膜硝子体
- 緑内障
- 眼科専門医
- 専門研修指導医



澤木 綾子

SAWAKI, Ayako MD

JCHO 中京病院 眼科

- 白内障
- 角膜
- 眼科専門医



高木 勇貴

TAKAGI, Yuki MD

JCHO 可児とうのう病院 眼科 医長

- 緑内障
- 眼科専門医



志賀 優

SHIGA, Suguru MD

岐阜赤十字病院 眼科

- 緑内障
- 眼科専門医



城山 彰太

SHIROYAMA, Shota MD

富田眼科クリニック 副院長

- 網膜硝子体
- 緑内障
- 眼科専門医



藤田 美紀子

FUJITA, Mikiko

看護師



禰宜田 敦子

NEGITA, Atsuko

看護師



鳥井 俊希

TORII, Toshiaki

視能訓練士



Report 01  Portugal

SOE 2025 Congress



SOE2025は、欧州眼科学会（European Society of Ophthalmology）が開催する国際的な眼科学会で、2025年6月7～9日にポルトガルのリスボンで開催されました。学会中は終日晴天で天気恵まれてよかったと思いましたが、学会会場外は、とにかく暑いというより熱く、短時間で脱水症状になるのではないかなと思うほどで、5分後には雨が恋しくなりました。

学会では、サブスペシャリティに関する最新情報が多数報告されていました。

私は、眼内レンズが毛様溝に囊外固定された症例で術後3か月ごろより激痛が発生したため、毛様溝に強膜固定した症例を紹介しました。顕微鏡では絶対に観察できない毛様溝でしたが、内視鏡を使用して広範囲に破壊された毛様溝の映像を世界で初めて報告しました。術後の激痛は嘘のように完全消失しており、原因は眼内レンズループによる毛様溝破壊であることは明らかでした。

眼内異物の除去に対する手術に関するウエットラボにも参加しました。鉄片異物を入れた豚眼に対して、硝子体手術後にマグネットで除去するだけのものですが、ウエットラボ教育方法の貴重な経験ができました。

最も印象的であったのは、Vitreoretinal Surgery Highlights, Ukrainian Experienceというシンポジウムが開催されていたことです。爆撃の爆発で顔面ならびに両眼に障害を受けた眼球破裂症例に角膜移植と網膜剥離治療を同時に行う重症症例など、多数の戦時の眼外傷に対する手術症例が紹介されていました。どうやって新鮮角膜を手に入れたのかと最初は思いましたが、ヨーロッパにおけるウクライナ戦争の現状を想像することになり、胸が締め付けられる思いで傾聴させて頂きました。途中で退席する先生がいたほどリアルな発表で、将来の日本にいつ起こってもおかしくない考えると、心が暗くなる国際学会参加でしたが、大変貴重な経験をさせていただいたと思います。

発表のお手伝いなどしていただきました関係者の皆様、お留守番していただきました関係者の皆様、本当に有難うございました。

中京病院 眼科 加賀 達志

Report 03  France

The 25th Euretina Congress Paris 25



9月4日（木）から7日（日）まで、パリで開催されたEuretina Congressに参加しました。

私は今回、EBウイルスによる急性網膜壊死（ARN）に対する治療について発表しました。EBウイルスによるARNは非常にまれであり、治療法が確立されていません。また既報では多くの場合、視力回復が困難なことが報告されています。前房水PCRによる迅速診断、ガンシクロビル内服、硝子体手術によって良好な結果が得られたため、考察を加えて報告しました。

最新の硝子体手術機器の展示などもあり、展示ブースも盛り上がっていました。中京病院は内視鏡手術を専門にしておりますので、内視鏡のブースものぞいてみましたが、内視鏡に関しては現在も日本製のスモールゲージ内視鏡が優れているようです。

他にはPVRに対するメトトレキサート注射などがトピックとして議論されていました。RD再発予防に関して有効性が報告されており、今後中京病院でも使用を検討したいと思っています。

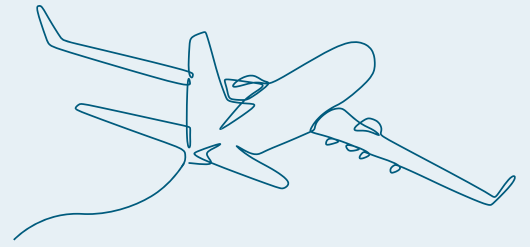
9月初旬のパリはとても涼しく（寒いくらい？）、ダウンジャケットを着ている人もいました。

スイーツや食事はやっぱり美味しいですね 🍷

今回のEuretinaは過去最大規模で、約1万人の参加があったそうです。世界各国からの発表を聞き、多くの刺激を受けることができました。

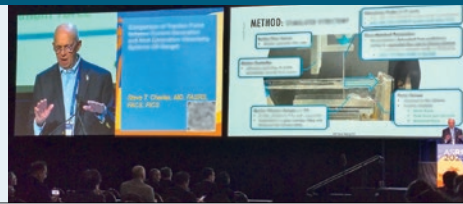
三条会含め関係者の皆様、ありがとうございました。

中京病院 眼科 松田 泰輔



Report 02  United States of America

ASRS 2025 The 43rd Annual Scientific Meeting



ASRS (American Society of Retina Specialists) はアメリカの網膜専門医学会で、推薦者が必要ですが、海外からも参加できる今や国際的な学会です。最先端の網膜疾患における手術や承認前の薬剤を含めた薬物治療などが発表され、今後の網膜治療の将来を感じることができる世界一素晴らしい網膜学会だと思います。

今年は、7月30日から8月2日までLos AngelesのLong Beachで開かれました。

私は、松田泰輔先生と共同で〈内視鏡併用硝子体手術における外傷眼の鈍的外傷による眼球破裂3症例に対する硝子体手術における眼内視鏡の有効性〉を報告しました。加齢黄斑変性症の薬物治療は、2から8mgになった高濃度アフリベルセプトとVEGFだけでなくAng-2阻害効果もあるファルシマブの第2世代と呼ばれるA-VEGF硝子体注射の新しいデータが多数発表されていました。どちらも従来のA-VEGFより注射回数が少なく優れているようですが、後者は網膜下血種の発生率が優位に少ないといった興味深いデータが示されていました。

その他、遺伝子治療、バイオシミラー、チロシンキナーゼ阻害剤、持続時間を長くするドラッグデリバリーシス

テムや徐放剤を眼内に注入するなど種々のものが発表されており、今後日本でも使用できるようになりそうで、治療の選択肢が増えて頭を悩ませそうです。

私が敬愛している開発ならびに術者であるCharles先生が、新しい硝子体手術器械であるUnityVCSの優れた性能を紹介していました。早く導入したい〜！

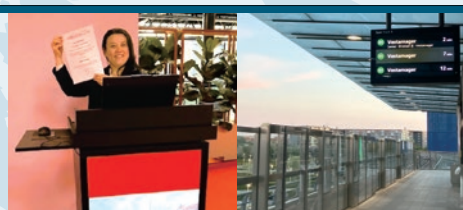
硝子体手術術後に増殖性硝子体網膜症といった厄介な合併症が発生しますが、予防のためにメトトレキサートを複数回注射する治療がとても注目されていました。

今回、著名な先生が多数紹介されていましたが、その中に私が留学していた施設であるVRMNY (Vitreous Retina Mcula Consaltants of New York) のYannuzzi、Fisher、Speide先生3人とその関連施設で吉田則彦先生も留学でお世話になったコロンビア大学のChang先生が紹介されていました。このような素晴らしい4人から学ぶ機会があったことは本当に幸運だったと思いました。素晴らしい学会に参加、発表する機会を作っていただきました関係者の皆様に感謝致します。


中京病院 眼科 加賀 達志

Report 04  Denmark

The 43rd Congress of the ESCRS 2025



昨年に引き続き、2025年9月12日(金)～16日(火)に開催されたESCRS (欧州白内障屈折矯正手術学会/European Society of Cataract and Refractive Surgeons)に参加し、e-posterを提出しました。

今年はコペンハーゲンでの開催でした。ホテルから会場まではひとりでメトロを使用しましたが、ホームも車内も清潔で、時間通りにやって来るメトロ  に初日から感動しました。

また、今回の学会では光栄なことに、★ poster prize ★を受賞することができました。

ICL術後のvaultの長期変化を解析するという個人的にも興味深い内容でしたので、非常にうれしい結果でした。ご指導いただきました先生方に心より感謝申し上げます。学会期間中にはチャリティーラン&ウォークにも参加

しました。程よい気候の中で心身ともにリフレッシュできた素晴らしい体験でしたが、その後筋肉痛に苦しむことになり、何事も事前準備が大切なことを実感しました。今学会で学んだことを日々の診療に還元し、またいつかこのような研究発表の機会が持てるよう、研鑽に努めてまいります。

素晴らしい学会に参加、発表する機会を作っていただきました関係者の皆様に感謝致します。



中京病院 眼科 澤木 綾子

高木 勇貴 医師 (JCHO 可児とうのう病院)





2025年は6件の論文掲載と結果を残せることができました。
2026年は若い先生との研究指導にも注力したい。



1 Comparison of IMO vifa24plus(1-2) and Humphrey Field Analyzer 24-2.
Clinical Ophthalmology 2025;19 301-307
Published: 30 January, 2025

2 Evaluation of visual function within the central 10 degrees using IMOvifa™ 24plus (1-2).
PLoS One. 2025 May 12;20(5):e0323630.
Published: 12 May, 2025

3 Comparison of angle-closure detection between automated gonioscopy and anterior-segment optical coherence tomography.
PLoS One. 2025 Sep 15;20(9):e0332590.
Published: 15 September, 2025

4 Evaluation of the insertion depth of the iStent inject W and its association with surgical outcomes using automated gonioscopy.
Journal of Clinical Medicine. 2025, 14(21), 7547.
Published: 24 October, 2025




5 Recurrent anterior chamber migration of intravitreal triamcinolone following scleral-fixated IOL implantation.
Clinical Case Reports. 2025 Oct 31;13(11):e71102.
Published: 31 October, 2025




6 Investigation of age-related changes in iris curvature among Japanese participants.
Clinical Ophthalmology 2025;19 4493-4503.
Published: 8 December, 2025




上記掲載論文より紹介

- 1** **タイトル** Comparison of IMO vifa24plus(1-2) and Humphrey Field Analyzer 24-2.
掲載誌 Clinical Ophthalmology 2025;19 301-307

本研究は、IMO vifa 24plus (1-2) と Humphrey Field Analyzer (HFA) 24-2 の検査結果を比較したものです。52名・104眼を対象に両検査を実施し、検査時間、固視、偽陽性・偽陰性、視野指標を評価しました。IMO vifa 24plus (1-2) は HFA24-2 (54点) よりも多い78点の測定点を有するにもかかわらず、検査時間は有意に短く、約12%の短縮が確認されました。これは独自のAIZEアルゴリズムによる効率的な閾値推定の効果と考えられます。また、固視

喪失率はIMO vifaで有意に低く、偽陽性・偽陰性率に有意差はありませんでした。信頼性の高い症例におけるMD、PSD、VFIはいずれも強い相関を示し、IMO vifaがHFAと同等の視野評価を提供し得ることが示されました。このことより、IMO vifa 24plus (1-2) は、患者さんの検査負担を軽減しつつ、高い臨床的有用性を持つ視野検査機器と言えると考えられます。

今後の論文執筆の展望

今年は目標としていた論文の投稿作業を一通り行い、かつAccept・出版まで漕ぎ着けることができました。ただ、とても疲れましたので(途中で何を書いていたか自分でもわからなくなってし

まうほどに…)、来年からは持続可能なペースに落として、引き続き、頑張りたく思います。また、稲熊先生・竹内先生や若手の視能訓練士の教育指導にも取り組んでいきたいと考えております。



大鹿 太郎 医師 (飯田市立病院)

タイトル

Reproducibility and Screening Capability of Corneal Epithelial Thickness Measurement for Keratoconus Using Anterior Segment Optical Coherence Tomography.

掲載誌

Clinical Ophthalmology 2025;19 2057–2065
Published: 30 June, 2025



コメント

本研究はCASIA2と呼ばれる前眼部OCTを用いた角膜上皮厚測定 of 再現性と円錐角膜スクリーニング性能を評価したものです。Amsler-Krumeich分類に基づき分類されたステージ1-2の円錐角膜と正常眼を対象に、24セクターの上皮厚を解析したところ、三連続測定 of ICCは円錐角膜・正常眼ともに0.95以上と高く、臨床応用に十分な再現性が確認されました。結果として、円錐角膜では下方・下耳側で上皮が菲薄化し、上方で肥厚する典型的パターンが認められ、さらに上皮厚の標準偏差が全領域で有意に増大していました。上皮厚の上下比も円錐角膜で増加しており、局所的な上皮リモデリングを反映すると考えられます。ロジスティック回帰では上皮厚の標準偏差および上下比が有力な診断指標となり、

AUROC 0.955、感度92.1%、特異度100%と高い識別能を示しました。これらにより、CASIA2を用いた角膜形状解析は従来の形状解析を補完し、円錐角膜の早期診断や屈折矯正手術前スクリーニングの補助として、臨床的な有用性が期待される内容です。本研究および本論文の作成に際し多大なるご指導とご支援をいただきました先生方、スタッフの皆様には深謝申し上げます。

Clinical Ophthalmology



中村 友昭 医師 (名古屋アイクリニック理事長)

タイトル

Vault Decay Prediction Formula for Posterior Chamber Phakic Intraocular Lens with Central Hole Implantation: a 10-year Follow-up Study.

掲載誌

American Journal of Ophthalmology DOI: 10.1016/j.ajo.2025.10.030
Published(Available online): 25 October, 2025



〈日本語タイトル〉『貫通孔付き後房型有水晶体眼内レンズICL(V4c)の術後Vault変化の予測～ICL手術の安全性マネジメントにおける数理モデルの体系化』

コメント

ICL手術における課題の一つは、4種類のレンズサイズから最適サイズを選択する点です。サイズの誤選択は、白内障や緑内障など様々な術後合併症に直結します。そこで、我々は前眼部OCT(CASIA2)を用いてレンズサイズを自動的に選定する新しい数式(NK式)を開発し、最適なサイズ選択に貢献してきました。今回、術後の安全性指標であるVault(ICLと水晶体の距離)について、術後10年にわたるVaultデータを解析し、長期的な変化を予測可能な新たな数式(NS式)を考案しました。

NK式により術前に最適サイズを選択が可能となり、NS式により長期的なVault変化を予測できることが示され、術前から術後長期にわたる一貫した安全性マネジメントが可能となりました。

AMERICAN JOURNAL
of OPHTHALMOLOGY



川口 ゆいこ 視能訓練士 (JCHO 中京病院)

タイトル

Phenotypic Analysis of Intentionally Created Monocular Visual Field Defects During Bilateral Randomized Visual Field Testing Using the imo Vifa®.

掲載誌

Journal of Clinical Medicine 2026, 15(1), 9 DOI: 10.3390/jcm15010009
Published: 19 December, 2025



コメント

imo vifa®(アイモ)は、両眼開放下で検査可能であり、患者が検査眼を判断できないという特徴を持った視野計です。そのため、詐病患者が意図的に片眼の視野異常を作成することが困難である可能性が予想されます。本研究ではアイモの特性を利用し、健常者が詐病を装う形で、両眼開放下にて片眼の視野異常の作成を試みました。そして、作成した視野の傾向について検討しました。結果として、指示通りの片眼性視野異常は作成できず、アイモの刺激提示特性が模倣視野の作成を困難にする可能性が示唆されました。また、作成された視野の傾向は、視野に対する被検者の知識

や経験の有無により異なる結果となりました。これは誤った視野の認識によるものと考えられます。よって、アイモは詐病診断において潜在的に有用である可能性が示されました。ご指導いただきました高木勇貴先生をはじめ各先生方、そして健常者として検査にご協力いただきました皆様には感謝申し上げます。

Journal of
Clinical Medicine



SANJO RESEARCH AWARD 2025

眼科三条会 リサーチアワード 2025

[2024年発表論文] リサーチアワード受賞者報告

受賞者

大坪 充 医師 旭川医科大学 眼科学教室

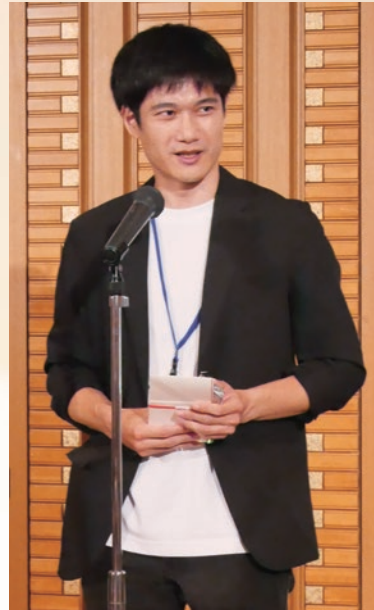
タイトル

Endoscopic Surgery for Congenital or Acquired Cataract Associated with Persistent Fetal Vasculature: A Case Series.

掲載誌

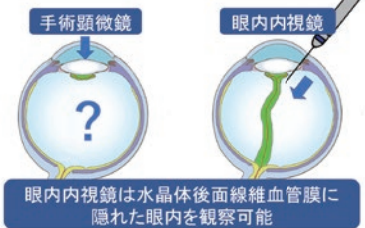
Retinal Cases & Brief Reports 2024 Jul 19.
doi: 10.1097/ICB.0000000000001634

RETINAL CASES & BRIEF REPORTS



この度は貴重な賞を賜り、誠にありがとうございます。眼内内視鏡は角膜混濁などで顕微鏡下の観察が困難な際に、眼内から直接観察を可能とするデバイスであり、顕微鏡手術と併用することで死角を補う点で網膜硝子体手術に有用です。今回の論文では Persistent Fetal Vasculature (第一次硝子体過形成遺残) 併発白内障に対する内視鏡手術の有効性を case series として報告しました。本疾患では水晶体後面の線維血管膜と Vitreous stalk が視認を妨げ、牽引性網膜剥離のリスクも伴います。本研究では内視鏡で stalk の性状を確認し、網膜を含む場合は温存、含まない場合は切除する方針とし、安全な術式選択が可能となりました。ご指導いただいた先生方に深謝し、今後も内視鏡手術の発展に貢献できるような尽力いたします。

第一次硝子体過形成遺残における眼内内視鏡併用手術模式図



眼内内視鏡は水晶体後面線維血管膜に隠れた眼内を観察可能



こちらのQRコードより論文をご確認いただけます



眼科三条会・Sanjo Research Award

眼科三条会では、若手の研究奨励を目的に、『Sanjo Research Award』という学術奨励賞を設けております。

『Sanjo Research Award』は医師に限らずコメディカルにも応募可能ですので、多くの方にチャレンジをしていただきたく考えております。

対象者

以下の①～④をすべて満たす者

- ① 関係施設にて勤務をされている方(医師でなくても応募可能)
- ② 応募年の1月1日現在で45歳以下の方。
- ③ 過去3年間に、リサーチアワード大賞を受賞されていない方。
(補足:一度大賞を受賞された方は、受賞後3年間は応募を不可とする。
多くの皆様にチャレンジの機会を得ていただくため。)
- ④ 応募者は、応募締め切り(*毎年1月末日とする)の前年1月1日～12月31日に発表された論文の筆頭筆者とする。
例) 応募締切 2025年1月末日
応募対象論文 2024年1月1日～2024年12月31日に発表の論文

※雑誌発行とのタイムラグがある場合PubMedで確認、もしくはEditorからのAccept Letterが12月31日迄に確認できれば認めるものとする。

選考・結果通知

- ▶ 眼科三条会リサーチアワードの選考は、選考委員会にて評価を実施し、その平均点上位1名を選出する。
- ▶ 受賞者には、結果を5～6月末日頃(同年総会開催月前)までに通知する。
- ▶ 毎年6～7月開催の総会にて受賞者の表彰をし、その後、直近の眼科三条会勉強会にて、受賞者による『受賞記念講演』を実施する。
※選考委員会メンバーは、応募論文のCo-authorに含まれている方は、可能な限り除外とする。

判定基準

- 研究の評価を以下の2項目について5段階評価し、その後掲載論文のインパクトファクターを加えて点数化する。
- ① アイデアの独創性(独創性なし0点～独創性が非常に高い5点)
 - ② 臨床への有用性(有用性なし0点～有用性が非常に高い5点)
- ※インパクトファクターのサイトスコア

副賞 ★賞金30万円(賞金の使用用途に規制は設けない) ★ホームページ、アニュアルレポートへの寄稿

皆さまのチャレンジをお待ちしております!

院長交代・ご就任のお知らせ

医療法人REC
名古屋アイクリニック

小島 隆司 新院長



院長交代のお知らせ・ご挨拶

2025年9月より名古屋アイクリニックの院長を拝命いたしました。これまでJCHO中京病院や地域の先生方からの多くのご紹介、そして眼科三条会スタッフの支えによって、私自身も当院も育てていただいたことに深く感謝いたします。名古屋アイクリニックは眼科三条会の会員施設として、今後も三条会が掲げる「教育・診療・研究・連携」のビジョンに直結する実践拠点であり続けることをお約束します。若手医師・コメディカルの教育を体系化し、専門医が高度医療と研究に挑める場を整備し、得られた知見を三条会のネットワークで共有・発展させ、三条会全体の臨床力と研究力の底上げに寄与したいと考えています。さらに施設間の紹介・症例相談・共同研究を通じて連携の質を高め、患者さんに心から喜んでいただける眼科医療を届け、長く地域から信頼される医療を提供してまいります。



診療時間・交通案内

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	◎	-
14:00~17:00	○	○	○	○	○	-	-

※診療受付時間は、午前は11:30まで、午後は16:30(◎土曜日は13:00)までです。
※祝日や年末年始などについては、お問合せください。

完全予約制 急患の場合はこの限りではありません。



〈アクセス〉JR・名鉄・地下鉄：金山総合駅 東口より徒歩1分

駐車場

名古屋アイクリニック

〒456-0003 愛知県名古屋市熱田区波寄町24-14
COLLECT MARK 金山2階
TEL:052-872-0490
<https://nagoyaeyeclinic.or.jp/>



医療法人社団至光会
小森眼科

小森 伸也 新院長



院長交代のお知らせ・ご挨拶

いつも大変お世話になっております。令和7年4月1日より前任の小森敏郎院長より院長を拝命しました小森伸也です。眼科医になって右も左も分からなかった研修医時代から、あっという間に20年の年月が過ぎました。その間大学病院や市中病院でたくさんの患者さんと出会いました。これまで出会ったすべての患者さんに今の眼科医としての私を育てていただいたと言っても過言ではありません。治療で視力を取り戻した時の眼科医としての達成感の一方で、治療法のない病気で視力を失っていく患者さんを目の前にしての無力感は悔しい気持ちで胸が締め付けられます。今まで出会ったたくさんの患者さんに育てていただいたという感謝の気持ちを忘れずに、患者様、地域医療にもとより微力ではございますが貢献するために専心努力いたす所存でございます。何卒、前院長同様ご厚誼ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



診療時間・交通案内

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	※	○	○	○
午後	○	○	※	○	○	※

午前の診療時間 8:45~12:00

午後の診療時間 15:45~18:30

※水曜日 手術 ※土曜日(14:30-17:00)は第1週目のみ診療を行っております。

休診日 日曜、祝祭日、第2・3・4・5土曜日午後



小森眼科

〒501-0565 岐阜県揖斐郡大野町大字中之元1124
TEL:0585-34-3535
<https://www.komori-gannka.jp/>



医師の所属施設紹介

独立行政法人 地域医療機能推進機構

中京病院

高度機能病院として、白内障、網膜硝子体、緑内障、角膜など幅広い難治性疾患の治療を行っております。特に、当院の特徴である内視鏡併用硝子体手術は国内有数の実績があり、治療困難な外傷などの超難治症例は、全国の大学病院からもご紹介をいただいております。

当院は全国でも珍しく、単独で眼科専門医を習得することができる総合病院です。

研修基幹施設として眼科専攻医の教育をしておりますが、2024年の3人に続き、2025年も2人が入局しました。今後、教育などでお世話になりますが、よろしくご指導お願いいたします。

また、当院では、国外・国内留学も受け入れております。2024年7月から世界的にも珍しい内視鏡併用硝子体手術をマスターするために新たに国内留学した先生は、今では網膜剥離など種々の症例を一人でっており、今や大事な戦力となっております。今後も教育施設として、学会発表、論文作成や新しい手術器具の開発など精力的に行っていきたいと思っております。

スタッフ紹介

診療部長 加賀 達志 医 長 渡邊 三訓、松田 泰輔

医 師 澤木 綾子、城山 彰太、岸 孟史（国内留学中）

非常勤医師 吉田 則彦、小島 隆司、高木 勇貴



2025 MOVEMENT

MOVEMENT

新しい眼科外来の始動

中京病院では、地域医療構想・地域医療計画の実現に向け、公的医療機関に求められる役割を果たすために、高度急性期・急性期医療を担い、総合病院としての特徴を活かした5疾病6事業に対応できる病院を構築するため、2023年度より新棟建設を含めたJCHO中京病院全体の整備が進行しております。当眼科は、2025年9月より新しい眼科外来となりました。従来の本館3階と位置は変わりませんが、検査室が大きく拡充され、診察室を一つ増設し、5診療体制となりました。これまでと比較して約2倍の床板面積になり、広々とした空間で、患者さんの移動もスムーズになり、安全で快適な検査、診察が可能となっております。今後ともご紹介をよろしくお願いいたします。



▲ 広くなった検査室

2026 VISION

新棟始動と新しい時代に対応した眼科診療の構築

中京病院は、2023年より新棟建設を行ってまいりましたが、ついに2026年1月より新棟が開院いたします。新棟では、手術室が拡充され、これまで以上に安全確実、より高精度な手術治療が可能になります。その後、本体の改修や駐車場整備など行い、病院全体が整備され2027年度に完全完成し、中京病院は新しい時代を迎えます。眼科も新しい時代の眼科医療に向けて改革が進行中です。今後にご期待ください。



▲ 新棟 外観

独立行政法人 地域医療機能推進機構

中京病院 眼科

〒457-8510 愛知県名古屋市中区三条 1-1-10
TEL: 052-691-7151 (代) FAX: 052-691-6053

ホームページはこちら



医師の所属施設紹介

日本赤十字社 岐阜赤十字病院

岐阜赤十字病院は、岐阜駅から車で約10分、岐阜市の長良川沿いに位置する総合病院です。眼科は、医師9名（常勤5名、非常勤4名）、CO7名とスタッフも充実しており、年間約2,700件もの手術を行なっています。硝子体専門医、白内障専門医、緑内障専門医が在籍し、幅広い対応が可能です。



スタッフ紹介

部長 吉田 則彦

医師 三田村 麻里、岡村 周子、志賀 優、鈴木 孝弥

非常勤医師 渡邊 三訓、小島 隆司、近藤 奈津、大鹿 太郎

視能訓練士 7名

看護師 2名

医療事務 4名

手術実績

	白内障	網膜硝子体	緑内障	角結膜	角膜移植	眼形成涙道	屈折矯正 (ICL)	硝子体注射	ほか	合計
2023年	863件	207件	93件	78件	8件	25件	3件	477件	18件	1,772件
2024年	1,314件	284件	127件	65件	14件	44件	6件	674件	16件	2,544件
2025年	1,390件	329件	154件	72件	9件	43件	2件	685件	29件	2,713件

※2023年は4月～12月の件数となります。 ※白内障には、緑内障、網膜硝子体との同時手術を含みます。

2025 MOVEMENT

MOVEMENT
01

鈴木孝弥医師が 常勤医として入職

新たに鈴木孝弥医師が常勤医として加わりました。鈴木医師は白内障手術を中心に積極的に執刀し、多くの症例を担当することで当院の手術件数の増加に大きく貢献しています。難症例にも前向きに挑戦し、また常に技術向上を意識しており安全で質の高い手術提供に努めています。

外来では新規患者の診療にも力を注ぎ、専門医資格の取得に向けて日々研鑽を重ねています。鈴木医師の加入により、クリニックからの紹介患者の受け入れも拡大し、地域医療機関との連携は一層強化されました。



▲ 鈴木 孝弥 医師

MOVEMENT
02

UNITY VCS (ユニティ)の導入

新たに眼科手術機器 UNITY VCS (ユニティ) を導入しました。本機の特徴として、前房や眼圧を安定して制御しつつ効率的に核を除去できることに加え、高速硝子体カットにより安全で精度の高い手術が可能である点が挙げられます。これにより、複雑な症例にも積極的に取り組むことができるだけでなく、組織損傷の軽減など、より安全な手術を患者さんに提供することが可能となりました。

日々増加する手術件数に対しても、効率のかつ質の高い手術提供が可能となり、地域の患者さんにより良好な視機能の回復をお届けできる体制が整いました。



2026 VISION

岐阜県の眼科基幹病院として、地域の患者さんが安心して質の高い治療を受けられるよう、幅広い眼科疾患に対応できる体制へ、より一層の充実を図ってまいります。慢性疾患から救急症例まで、専門性とチーム医療を強化し、切れ目のない医療提供を目指します。2026年は、地域クリニックとの連携強化と紹介・逆紹介体制の整備に加え、最新機器や新しい治療法の導入にも積極的に取り組み、患者さんに最適な医療とケアを提供できるよう進化を続けます。

日本赤十字社

岐阜赤十字病院 眼科

〒502-8511 岐阜県岐阜市岩倉町3丁目36番地
TEL: 058-231-2266 (代) FAX: 058-233-7772

ホームページはこちら



独立行政法人 地域医療機能推進機構

可児とうのう病院

可児とうのう病院は、中京病院と同じくJCHO 関連病院で、名前の通り岐阜県可児市にあります。ただ中京病院と比べると、190床程度の小規模な総合病院です。当院眼科は、医師は常勤2名と非常勤4名、視能訓練士と看護師はそれぞれ2名、事務員も3名のコンパクトな眼科です。規模が小さいため手術日の制限や緊急対応が出来ない場合もありますが、白内障手術をはじめ、濾過手術を含めた緑内障手術、網膜剥離に対する硝子体手術、涙道・眼形成手術まで幅広い疾患が対応可能です。

スタッフ紹介

医 長 高木 勇貴

医 師 窪田 幸真

非常勤医師 加賀 達志、小島 隆司、松田 泰輔、稲熊 里香

視能訓練士 2人 (*2026年度より4名)

看 護 師 2名

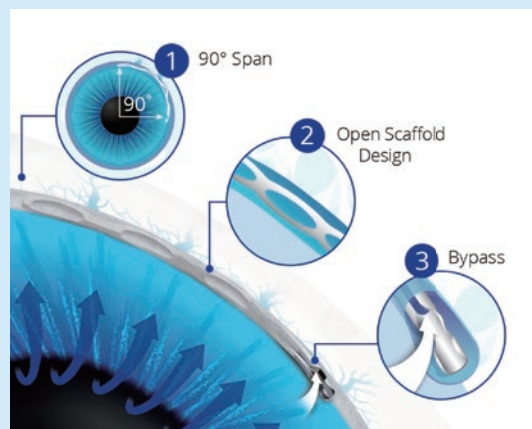
医療事務 3名



2025 MOVEMENT

緑内障手術の バリエーションの増加

昨年までは、常勤体制ではなかったため、施設基準のない濾過手術のみしか実施できませんでした。そのため、より軽症な緑内障患者に対する線維柱帯切開術や、緑内障が併存している白内障手術時の眼内ドレーン挿入術の対応ができませんでした。しかし、今年度より常勤体制となったことから、これらの施設基準を満たすこととなり、対応が可能となりました。また、最新の眼内ドレーンである、Hydrus®も中京病院とほぼ同時期に開始しております。従来の線維柱帯切除術も実施しており、一通りの緑内障手術が可能となりました。



▲ Hydrus®を線維柱帯に挿入 (Alcon HPより)

MOVEMENT

01

MOVEMENT

02

手術件数の増加

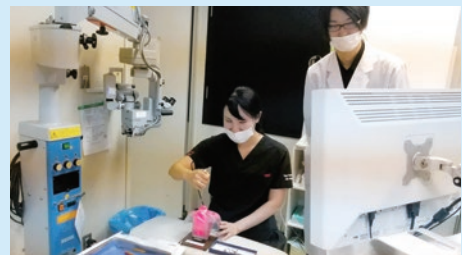
当院眼科が常勤体制になるまでは、外来患者数及び手術件数は右肩下がりでも推移しておりました。しかし、常勤体制となり、手術日の増加と共に対応できる疾患も増えたことから、手術件数は年間400件(以前は200件台)を見込んでおります。これは、我々眼科スタッフの努力もありますが、白内障手術症例や緑内障手術症例をご紹介いただいている近隣の先生方のおかげです。今後も患者さん並びに近隣の先生方の期待に沿い、信頼していただけるよう、一層努力してまいります。



MOVEMENT
03

涙道・眼形成の外来及び手術の開始

当院には窪田医師並びに稲熊医師と、やる気に満ちた若い医師が在籍しております。二人の熱意に応える形で、名古屋アイクリニックの小島院長を指導者に迎え、涙道・眼形成の専門外来の設立及び教育を開始いたしました。外来開設後、専門外来患者数と手術件数は右肩上がりとなっています。そして窪田医師は眼形成の手術、稲熊医師は涙道内視鏡の手術のスキルが着実に伸びてきました。また、教育の一環として、シュミレーターを用いた涙道内視鏡の練習、豚眼を用いた眼形成手術の実習も実施しています。他にも、職員向けとまだ限定ですが、窪田医師はピマトプロストを用いたまつ育外来の担当をしています。学術面では眼瞼に関する研究として、稲熊医師がDemodexに関する研究を日本臨床眼科学会で発表しました。今後は、講演会などを開催して、若いやる気のある医師たちが、さらに専門的な知識を獲得できる機会を設けることができると考えています。



▲ 稲熊医師(左)と窪田医師(右)

2026 VISION

これまで、当院の緑内障手術はプリザーフローマイクロシャントを用いた濾過手術から始まり、谷戸式マイクロフックによる流出路再建術、そして眼内ドレーン挿入術と実施出来る手術が増え、少しずつ実績を積み重ねてきました。しかし、血管新生緑内障など難治性の緑内障に対する治療として必要となる、ロングチューブシャントの実施は出来ませんでした。2026年度からは実施可能になる見込みであり、今後さらに幅広い緑内障症例に対応できるようになります。可児市の緑内障診療に更に貢献できるよう努めます。

独立行政法人 地域医療機能推進機構

可児とうのう病院 眼科

〒509-0206 岐阜県可児市土田1221番地5
TEL: 0574-25-3113 (代) FAX: 0574-25-4657

ホームページはこちら



医療法人REC 名古屋アイクリニック

名古屋アイクリニックは、角膜・白内障・ドライアイ・緑内障・網膜硝子体といった前眼部から後眼部まで、幅広い分野に対応できる体制を整え、小島隆司新院長のもと、経験豊富な専門医と次世代を担う若手医師がチームとして研鑽を重ね、高水準の眼科医療を提供しています。屈折矯正手術の専門施設として、国内屈指のエキスパートインストラクターによるICL手術や、最新機器を用いたSMILE pro手術を提供し、多くの医師からも信頼されるクリニックとして、伝統と革新を両立しながら進化を続けています。



スタッフ紹介

- 理事長 中村 友昭
 院長 小島 隆司 副院長 吉田 陽子
 非常勤医師 加賀 達志、渡邊 三訓、吉田 則彦、松田 泰輔、
 高木 勇貴、山崎 和子、欄 崇子、高橋 研一、
 鈴木 孝弥、竹内 和徳
 視能訓練士 14名 看護師 9名 医療事務 15名

手術実績

	屈折矯正	白内障	多焦点 眼内レンズ
2023年	2,007件	1,787件	345件
2024年	1,600件	1,800件	272件
2025年	1,449件	1,757件	330件

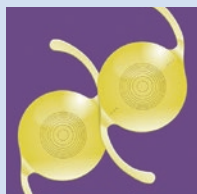
2025 MOVEMENT

MOVEMENT
01

新しい発想

ジェOMETリックペアリングと
白内障手術の進化

名古屋アイクリニックでは、両眼の見え方の調和を追求した新しい多焦点眼内レンズ戦略「ジェOMETリック ペアリング」を導入しています。遠方視に優れるジェOMETリックと、中間・近方をカバーするジェOMETリックプラスを左右で組み合わせることで、左右眼の光学的親和性が高く、自然で違和感の少ない見え方を実現しています。夜間のグレアやハローも軽減され、日常生活での満足度の向上が期待されます。ペアリングは片眼手術後に見え方を確認してからもう片眼のレンズを選択する「2ステップ法」を採用することで、より個性性の高い視機能設計を可能にしています。1日で両眼を完了する同日手術にも対応し、ライフスタイルや希望に合わせた“理想の見え方”をデザインする白内障治療を実践しています。

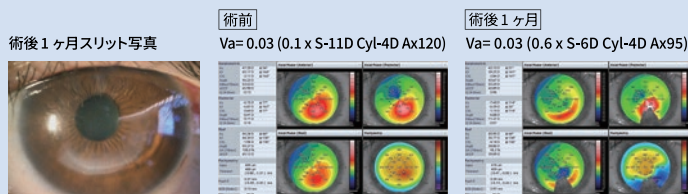


MOVEMENT
02

進化する円錐角膜治療

CAIRS(ケアーズ)の本格始動

2024年11月に導入した新しい円錐角膜治療「CAIRS (Corneal Allogenic Intrastromal Ring Segments)」を、2025年より本格的に施行しています。フェムトセカンドレーザーを用いて角膜実質内に精密なトンネルを形成し、弧状にトリミングした移植片を挿入する低侵襲の移植法で、生体適合性が高く、従来の人工素材による角膜内リングに比べて早期の視力回復が期待されています。角膜クロスリンク後やハードコンタクトレンズ不耐の中等度症例を中心に適応しており、2025年は症例数23例と、順調に増加しています。術後は眼鏡で矯正可能となるなど、良好な視機能改善を確認しており、国内における新たな円錐角膜治療の選択肢として注目されています。



2026 VISION

名古屋アイクリニックでは、臨床研究と先進治療の両輪で眼科医療の発展に取り組んでいます。屈折型焦点深度拡張眼内レンズ「PureSee」を用いたモノビジョンの特定臨床研究を実施し、有効性と安全性の検証を進めています。また、翼状片やドライアイに対する新規点眼薬の治験も推進中です。小島隆司医師は17年前から強膜レンズの処方及び研究を継続し、その成果として当院で治験を行った「MISA」が承認を得て「ビューノSupreme」として製品化されました。確かなエビデンスに基づく革新を通じて、より多くの患者様へ新たな治療の選択肢を届けてまいります。

医療法人REC

名古屋アイクリニック

〒456-0003 愛知県名古屋市中熱田区波寄町24-14
COLLECT MARK 金山2階 TEL:052-872-0490

ホームページはこちら



心に寄り添う街の眼科さん 田中眼科

田中眼科（院長 田中浩人医師）は愛知県碧南市にあり、矢作川をはさみ、すぐ近くが西尾市です。白内障手術は院長執刀日が毎月2～3日、眼科三条会医師執刀日が毎月1日あり、手術を受けたい患者様の待ちが少なくなるよう頑張っています。



院内展示

まなざしの先に広がる景色・見える世界が広がる場所 — 田中眼科と『航空機がある風景』 —

患者様に見える喜びを味わっていただくため『航空機がある風景』という写真展示の場所を設けています。院長先生の知人であられる、写真家の車川浩司氏（刈谷市在住）の写真展示を行っています。国内、海外の航空機がある風景をテーマに、すてきな写真を見ることができます。展示は、季節ごとに入れ替えられ、診察待ちの時間を少しでも楽しく過ごしていただけるよう、院長先生のお心遣いがうかがえるものとなっております。



▲展示されている写真の一部

田中院長より

✿ 診療に力を入れている点

開院以来、患者さんの気持ちに寄り添った医療を提供するように努めています。例えば、診療の前後に患者さんの顔を見て笑顔で挨拶をするよう、私も職員も意識しています。また無理をしないで安全で確実な医療を提供するよう心がけています。

✿ 眼科三条会への要望

特にありません。大変感謝しています。吉田先生と松田先生の手術手技や看護師の方の動きなど、常に感動しています。私も日々勉強させていただいています。



吉田医師

田中院長

▲田中眼科の皆さま、吉田医師との一枚

眼科三条会 看護師より

✿ 和やかさと緊張感、その両立を大切に

田中眼科は開院当初より勤務させていただいている医院です。海と川に囲まれたおだやかな環境から医院の雰囲気もアットホームとなっております。田中院長は野球がお好きで、2年前にスタッフ看護師のご息（岡江伸英選手・当時 大阪桐蔭高校）が高校野球甲子園大会に出場された際、院長はじめスタッフ一同で応援（残念ながら皆さん仕事のため現地までは行けませんでした）をしていました。現在は、大学野球を頑張っていて、スタッフ一同、我が子のように活躍を応援しています。和気あいあいとした雰囲気を大切にしつつ、仕事では気持ちを1段階切り上げて協力し、安全第一で手術業務を行いたいと思っています。今後ともどうぞよろしく願っています。



眼科三条会 看護師
藤田 敦子



▲岡江伸英選手の甲子園での勇士！
公式選手応援タオル

スタッフみんなで育む、あたたかい眼科づくり — 田中眼科 —

眼科三条会 所属医師の勤務施設一覧

常勤施設



独立行政法人 地域医療機能推進機構
中京病院 眼科
〒457-8510 愛知県名古屋市中南区三条1-1-10
TEL:052-691-7151(代)



日本赤十字社 岐阜赤十字病院 眼科
〒502-8511 岐阜県岐阜市岩倉町3-36
TEL:058-231-2266(代)



独立行政法人 地域医療機能推進機構
可児とうのう病院 眼科
〒509-0206 岐阜県可児市土田1221-5
TEL:0574-25-3113(代)



医療法人REC名古屋アイクリニック
〒456-0003 愛知県名古屋市熱田区
波寄町24-14 COLLECT MARK金山2階
TEL:052-872-0490

非常勤施設

地域	医療機関名	住所	電話番号
愛知県	医療法人涼真会 茶屋ヶ坂眼科クリニック	〒464-0092 愛知県名古屋市千種区茶屋が坂2-5-2	052-711-8880
	富田眼科クリニック	〒454-0985 愛知県名古屋市中川区春田3-9	052-302-8688
	医療法人 川本眼科	〒457-0013 愛知県名古屋市中南区寺崎町13-11	052-824-0800
	医療法人景山会 原田眼科	〒459-8001 愛知県名古屋市中緑区大高町天神75	052-625-5335
	社会医療法人大雄会 大雄会第一病院 眼科	〒491-8551 愛知県一宮市羽衣1-6-12	0586-72-1211
	医療法人豊潤会 たなげん脊椎・眼科クリニック	〒491-0858 愛知県一宮市栄2-12-14	0586-71-2375
	医療法人彩明会 林眼科クリニック	〒487-0034 愛知県春日井市白山町5-2-2	0568-51-3500
	医療法人alce 大鹿眼科	〒496-0045 愛知県津島市東柳原町4-27	0567-23-0900
	田中眼科	〒447-0807 愛知県碧南市伏見町3-21	0566-43-5331
	こじま眼科	〒470-0373 愛知県豊田市四郷町宮下河原27-4	0565-46-5611
	さくらい眼科クリニック	〒444-1155 愛知県安城市堀内町カラ桶3-1	0566-73-7676
	広島眼科	〒492-8230 愛知県稲沢市稲島東3-129	0587-23-1004
	医療法人ピュアビジョン とよあけ眼科	〒470-1154 愛知県豊明市新栄町3-325	0562-96-0700
	岐阜県	医療法人新生会八幡医院	〒501-4228 岐阜県郡上市八幡町桜町278
医療法人社団至光会 小森眼科		〒501-0565 岐阜県揖斐郡大野町大字中之元1124	0585-34-3535
長野県	医療法人 中村眼科	〒390-0811 長野県松本市中央3-6-22	0263-35-9539
千葉県	本橋眼科クリニック	〒273-0005 千葉県船橋市本町2-28-27	047-420-2001
神奈川県	ゆめが丘眼科・横浜 ゆめが丘ソラトス院	〒245-0019 神奈川県横浜市泉区ゆめが丘31 ゆめが丘ソラトス1 2階	045-803-1313
山口県	医療法人 小林眼科	〒753-0070 山口県山口市白石2丁目6-52-1	083-932-1236

協力体制にある施設及び医師

医師	医療機関名	住所	電話番号
内藤 尚久	内藤眼科	〒453-0036 愛知県名古屋市中村区森田町1-5-2	052-461-0010
馬嶋 清如	眼科 明眼院	〒454-0843 愛知県名古屋市中川区大畑町2-14-1 コーポ奈津1階	052-355-0007
浅野 亮	医療法人 浅野眼科	〒455-0801 愛知県名古屋市中港区小碓2-272	052-381-5770
戸塚 伸吉	医療法人 とつか眼科	〒457-0808 愛知県名古屋市中南区松下町1-1	052-613-4001
原 修哉	医療法人確全会 原眼科クリニック	〒491-0053 愛知県一宮市今伊勢町本神戸字無量寺東10-1	0586-23-0303
小谷 鐵馬	小谷眼科	〒510-0096 三重県四日市市中町8-13	059-352-9161
菅田 昌則	医療法人奏和会 菅田眼科クリニック	〒891-0109 鹿児島県鹿児島市清和4-5-33	099-284-9070



医師の募集

現在、眼科三条会では下記に該当する眼科医師を募集しています。

- 臨床のスキルを磨きたい非専門医
- 勤務医として自分の専門領域を磨き続けたい専門医
- 開業までの間にネットワークを築きたい医師



協力医療機関の募集

眼科三条会に所属する勤務医と共に地域における高度な眼科診療を目指す協力病院・医院を募集しています。

- 新規開業サポート
 - 次世代に継承するまでの繋ぎの期間の手術サポート
 - 手術の効率化
- 他、お困りのことがございましたらご連絡ください。

▷ 眼科三条会では以下のものをご提供いたします。

- 眼科医師の教育
- 専門外来
- 看護師、視能訓練士、事務員の手配
- オンライン勉強会による最新知識のアップデート
- 医療資源の共有
- 白内障、網膜硝子体、緑内障、角膜・屈折矯正の手術
- 手術の経験がない施設スタッフ(看護師・視能訓練士)の教育

お問合せ先

眼科三条会 (一般社団法人 地域医療に貢献する会)

電話 052-291-4450

MAIL info@sanjogroup.jp



Specialty field

白内障・眼内レンズ

No.1

医師紹介



吉田 則彦 医師 小島 隆司 医師 澤木 綾子 医師 三田村 麻里 医師

手術実績

白内障手術（PEAのみ、IOL挿入のみ、同時手術含む）			
施設名	2023年	2024年	2025年
岐阜赤十字病院 眼科	863件※1	1,314件	1,390件
外勤施設関連	6,793件	6,528件	6,777件
合計	7,656件	7,842件	8,167件

※1 2023年度の岐阜赤十字病院 眼科は4月～12月の件数となります。
 ※上記表は、JCHO中京病院、JCHO可児どうのう病院の件数は含まれておりません。
 ※施設の件数につきましては、病院のホームページより直接ご確認ください。
 ※緑内障、網膜硝子体との同時手術を含みます。

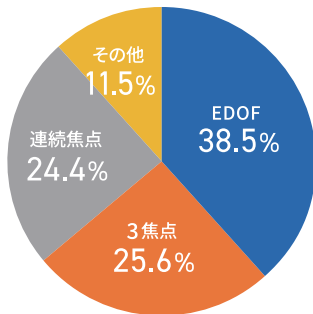
2025年活動報告

Report 2025年の多焦点IOL診療について

高齢化が進む中で、患者さんの価値観も「見えること」そのものだけでなく、「どう見たいか」「どの距離を重視したいか」へと多様化しています。こうした時代背景の中で、白内障手術は視力の回復にとどまらず、生涯の視覚体験を整える医療へと変化してきています。多焦点IOLはその象徴として、「プレミアム白内障手術」の中心的な技術になりつつあります。

このような背景のもと、2025年はレーザー屈折矯正術後眼という難症例に対する多焦点／EDOF IOLの術後成績を、日本臨床眼科学会で報告しました。LASIK、PRKなどの角膜屈折矯正術を受けた患者さんが白内障年齢に達し始め、術前角膜形状の特殊性、収差の変化、専用のIOL計算式の使用、さらにドライアイや角膜不正乱視など複合的な要因が絡むケースが増えています。これらは多焦点IOLのパフォーマンスに影響を与えやすく、術後満足度にも影響しやすいと考えられます。小島医師らが一般講演で報告したLASIK術後眼を対象とした多施設研究では、多くの知見が得られました。最も多く使用されていた眼内レンズはEDOF IOLであり、リスク回避の観点からEDOFが選択されることが多い可能性が示唆されました。今後さらに増加すると考えられる屈折矯正術後白内障に対し、安全性と患者満足度の最大化を両立させるため、当会の白内障班としても常に情報をアップデートし、研究を進めていきます。

名古屋アイクリニックにおける
LASIK術後眼に対して挿入された多焦点IOL



2025年は、多焦点眼内レンズにおいて新しい潮流が見られた一年でした。第一の潮流は、2種類の眼内レンズを組み合わせる両眼に挿入する「ペアリング」の登場です。遠方重視の三焦点眼内レンズであるジエメトリックと同一の光学設計を持ちながら、光配分比率を近方重視に変更したジエメトリックプラスを左右それぞれの眼に挿入する方法であり、HOYA社セミナーで小島医師がその実績について講演しました。本手方は従来のMix & Matchと比較して左右差の自覚が少ない一方、眼鏡依存度が低く、満足度の高い選択肢であることが示されました。第二の潮流は、非回折型EDOFであるTECNIS PureSeeの登場です。低異常光視症・高QOVという観点からレンズ選択の幅を広げる選択肢が増えました。多焦点IOLの臨床的価値が拡大する一方で、ハロー・グレアといった光視症やコントラスト低下は、患者満足に直結する重要な課題です。最近行われたESCRSの調査でも、眼科医が多焦点眼内レンズの使用に躊躇する要因として夜間の不快光視症が大きな割合を占めています。本年登場したペアリングやPureSeeは、こうした課題の軽減にも寄与し得るものであり、今後の多焦点眼内レンズ選択の幅をさらに広げると期待されます。

今後は、「患者背景 × 眼球の状態 × 希望の見え方」に基づいた個別化IOL選択アルゴリズムの確立がさらに重要になると考えます。患者さんの年齢、職業、趣味、夜間活動の比率、性格や光視症への耐性といった背景要因に加え、角膜の形状・収差・ドライアイ・網膜疾患・不正乱視・屈折矯正術歴などの眼の状態、そして患者さんご本人がどの距離でどれだけの裸眼視力を求めているかという視覚要求を術前に評価し、最適なレンズと目標屈折を導き出す仕組みが不可欠です。多焦点IOLの適応は「このレンズが良いか悪いか」という単純な二択ではなく、「この患者さんにとってどのレンズが最良の視覚体験をもたらすか」という問題になっています。当会としては、学術的成果を臨床の「判断ルール」に落とし込み、施設差を減らしながら、誰が行っても高いQOVに到達できる診療モデルへと高めていきたいと考えています。

2026年ビジョン

プレミアムIOL診療を「経験と勘」から「体系と精度」へ移していく一年にしたいと思えます。具体的には、①角膜評価とIOL計算精度の一層の強化、②多焦点／EDOF IOLの適応基準と術後QOV評価の標準化、③新世代レンズの中長期成績の蓄積と比較検討を行い、当会全体で共有していくことが鍵になります。多焦点IOLは“選ぶ医療”から“患者さんごとにデザインする医療”へと進化しています。2026年はそのデザイン力を当会の力として結晶化させ、患者満足と学術的価値の両面で、次のステージへ進む年にしていきたいと考えています。



Specialty field

No.2

網膜硝子体

医師紹介



加賀 達志 医師 吉田 則彦 医師 松田 泰輔 医師 岸 孟史 医師 城山 彰太 医師

手術実績

硝子体手術			
施設名	2023年	2024年	2025年
岐阜赤十字病院 眼科	207件※1	284件	329件
外勤施設関連	116件	167件	190件
合計	323件	451件	519件

硝子体注射			
施設名	2023年	2024年	2025年
岐阜赤十字病院 眼科	477件※1	674件	685件
外勤施設関連	575件	511件	440件
合計	1,052件	1,185件	1,125件

※1 2023年度の岐阜赤十字病院 眼科は4月～12月の件数となります。
 ※網膜硝子体手術は水晶体再建術等の同時手術を含みます。
 ※上記表は、JCHO中京病院、JCHO可児とうのう病院の件数は含まれておりません。2施設の件数につきましては、病院のホームページより直接ご確認ください。

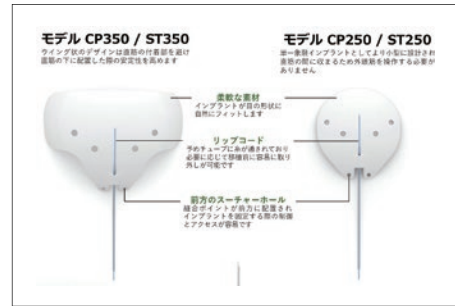
2025年活動報告

Report 1

新しい緑内障治療用インプラント アーメドクリアパス ST

血管新生緑内障などに使用されるアーメドバルブは眼圧調整用の弁がついており、バルブに比べて術後の低眼圧の発症率が低いことが報告されています。しかしバルブが開き、房水が流れる解放圧に個体差があり、バルブに比べて術後の平均眼圧が高めで薬剤使用数も多いという短所もあります。

2025年に新たに承認されたアーメドクリアパスSTは、バルブのないインプラントですが、あらかじめチューブ内にリップコードが挿入されており、かつバルブに比べてチューブの内径が細く設計されています。従来のアーメドバルブに比べて眼圧を低めに保ち、かつバルブに比べて術後の過剰濾過が少なくなることが期待されます。この新しい緑内障治療用インプラントを2025年10月に中京病院で導入しました(城山医師・松田医師)。中部地区では初導入となった最新のインプラントですが、現時点での術後経過は良好です。このチューブも眼内視鏡も用いることで、硝子体腔や毛様溝に確実に挿入できます。今後も症例数を増やし、効果や安全性を検討する予定です。



(JFCセールスプランHPより)

Report 2

～眼内視鏡の普及に向けて～ モデル眼を用いた眼内視鏡手術手技習得

岸医師が中京病院に着任してから早くも1年4カ月が過ぎました。新たに眼内視鏡手術を始めた場合、眼内オリエンテーションがつかず、その操作に難渋することが多いです。そのため眼内視鏡の習得に必要な手の動きを日本サージ社のBIONIKOモデル眼を用いて検証し、2025年5月内視鏡研究会で岸医師が発表しました。この検証結果を眼内視鏡普及に向けて、2026年1月の日本眼科手術学会で発表しました。また、新たに顔模型を購入しましたので、今度はそれを用いて4方向の内視鏡特有の手の動きを視覚的にわかるよう検証し、内視鏡未経験者でも安全に眼内視鏡手術手技が習得できるように学会などで報告する予定です。



2026年ビジョン

眼内視鏡は非常に有用ですが、国内外での普及はこれからです。今後のさらなる普及に向けて2025年11月に加賀医師が中国で講演しました。また2026年以降、中国での眼内視鏡手術の執刀、指導を予定しています。我々はこれまで、眼内視鏡の習得法につき学会などで講演してきましたが、今後も学会発表やモデル眼を使用した手技習得法を発展させることで、眼内視鏡手術の裾野が広がるよう努力する所存です。



Specialty field

No.3

緑内障

医師紹介



渡邊 三訓 医師



松田 泰輔 医師



浅野 亮 医師



高木 勇貴 医師



志賀 優 医師



城山 彰太 医師

※松田医師は硝子体班ですが、兼任でアームド緑内障バルブ手術やバルベルトインプラント手術を行っています。
※浅野医師には、外部協力者としてご協力いただいております。

手術実績

		2023年	2024年	2025年	
緑内障手術	内 訳	虹彩切除術	0件	0件	2件
		流出路再建術(眼内法)	39件	37件	146件
		濾過手術	10件	10件	4件
		緑内障治療用インプラント挿入術(プレートなし)	8件	25件	53件
		緑内障治療用インプラント挿入術(プレートあり)	3件	11件	38件
		水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術	39件	44件	40件
		濾過胞再建術(needle法)	2件	6件	8件
合 計		101件	127件	291件	

※各術式は水晶体再建術等の同時手術を含みます。
※左記表は、JCHO中京病院、JCHO可児とうのう病棟の件数は含まれておりません。2施設の件数につきましては、病棟のホームページより直接ご確認ください。
※2025年より富田眼科クリニックの緑内障手術件数を追加しております。

緑内障専門外来日

施設	月	火	水	木	金
JCHO中京病院 眼科	高木 勇貴 [午後]病診予約	渡邊 三訓 [午前]病診予約	城山 彰太 [午前]病診予約	浅野 亮 [午前]病診予約	渡邊 三訓 [午前]病診予約
JCHO可児とうのう病棟 眼科		高木 勇貴 [午前]病診予約	高木 勇貴 [午前]病診予約		高木 勇貴 [午前]病診予約
岐阜赤十字病院 眼科		志賀 優	志賀 優	渡邊 三訓 [月1回] 志賀 優	
名古屋アイクリニック			渡邊 三訓 [午後・月1回]	高木 勇貴 [終日]	松田 泰輔 [午後・月1回]
富田眼科クリニック	城山 彰太 [第2,4週 午後]	城山 彰太 [午後]			城山 彰太 [午前]

2025年活動報告

Report 1

高木勇貴医師が JCHO可児とうのう病院 へ異動

2025年4月より高木勇貴医師が可児とうのう病院へ異動となりました。中濃地区は緑内障診療が手薄な地域であり、今後同医療圏に質の高い緑内障治療を提供してまいります。中京病院の勤務につきましては、引き続き月曜日の診察・手術を担当いたします。



Report 2

毛様体破壊術の導入

中京病院において、緑内障のレーザー治療として、SLTレーザー、マイクロバルス毛様体光凝固術、内視鏡的毛様体光凝固術を施行していましたが、2025年から新たに**毛様体破壊術**を導入いたしました。毛様体破壊術は眼球ろうなど合併症のリスクは伴うものの、強力な眼圧下降効果を見込めるレーザー治療です。視機能が乏しく、かつ結膜の状態が悪いなど通常の緑内障手術の適応がない症例に対して今後実施していく予定です。



Cyclo G6® Glaucoma レーザーシステム



Gプローブ



マイクロバルスP3プローブ Rev2 (IRIDEX HPより)

2026年ビジョン

従来より当会が医師を手配している施設において、日帰りでの流出路再建術を施行していましたが、2025年から複数のクリニックでプリザーフロ®マイクロシャントを用いた日帰り濾過手術を開始いたしました。流出路再建術が無効であったり、末期の緑内障で濾過手術が必要なものの、アクセスの問題などでこれまで濾過手術を施行できなかった患者様にも、かかりつけのクリニックで濾過手術を提供できるようになりました。流出路再建術は施設基準において常勤医での緑内障手術実績が必要なため、実施できるクリニックに制限がございましたが、プリザーフロ®マイクロシャント手術は執刀医に制限はつくものの施設基準が不要のため、2026年は、これまで提供できなかった地域のクリニックにおいても緑内障手術を提供することで、地域医療に貢献してまいりたいと思っております。



Specialty field

No.4

角膜・眼表面

医師紹介



小島 隆司 医師



澤木 綾子 医師



中村 友昭 医師

顧問

手術実績

〈岐阜赤十字病院 眼科、外勤施設関連〉

年	手術 角膜移植術	翼状片・結膜弛緩症など その他の前眼部手術	角膜 クロスリンク
2023年	17件	328件	94件
2024年	18件	304件	76件
2025年	43件	267件	56件

※上記表は、JCHO中京病院、JCHO可児とうのう病院の件数は含まれておりません。2施設の件数につきましては、病院のホームページより直接ご確認ください。

角膜外来

施設	診療日	担当医
JCHO 中京病院 眼科	月曜	澤木 綾子
	火曜(月2回)	小島 隆司
岐阜赤十字病院 眼科	火曜(月2回)、金曜(月1回)	小島 隆司
名古屋アイクリニック	月曜、水曜、木曜、土曜(月2回)	小島 隆司

円錐角膜外来

施設	診療日	担当医
名古屋アイクリニック	月曜、水曜、木曜、土曜(月2回)	小島 隆司

アレルギー外来

施設	診療日	担当医
名古屋アイクリニック	月曜、水曜、木曜、土曜(月2回)	小島 隆司

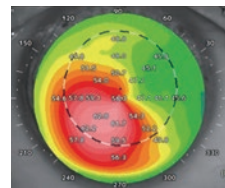
2025年活動報告

Report 1

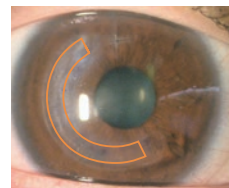
円錐角膜に対するCAIRS(低侵襲リング状角膜実質移植) 23件施行

昨年のアニュアルレポートで開始をお伝えしたCAIRSの症例数が、順調に増加しています。先日のESCRS(欧州白内障屈折矯正手術学会)でも多数の発表がなされており、世界的にも注目度の高い治療法です。

弧状に切り出したドナー角膜片を角膜実質内に挿入し、角膜形状の改善を目的とする手術です。ハードコンタクトレンズでの視力向上や裸眼視力の改善を希望される円錐角膜の患者さまがいらっしゃいましたら、ぜひ名古屋アイクリニックへご紹介ください。



術前
視力: 0.3 (0.6 X S-4.5D C-1.5D Ax40)



術後
視力: 0.6 (1.0 X S+2.0D C-1.5D AX55)

Report 2

学術活動

名古屋アイクリニックでは、2011年より施行を開始した角膜クロスリンクの累計施行数が、本年700眼を超えました。再照射に至った症例もあることから、角膜カンファランス2025において「再進行により2回目の角膜クロスリンクを施行した6例の報告」を澤木医師が発表しました。初回治療から再照射までの期間は21~84か月で、長期的なフォローアップの重要性が示唆される結果となりました。

第79回日本臨床眼科学会では、専攻医の稲熊医師が「地方都市におけるDemodexの生息頻度及び前眼部所見との関係性についての検討」を発表しました。Demodex(まつげダニ)はマイボーム腺機能不全などに関与するとされており、可児とうのう病院眼科外来患者における検出率は45%と、都市部の既報よりも高頻度でした。

同学会では澤木医師が「結膜腫瘍を契機に診断したEBウイルス陽性B細胞リンパ増殖性疾患」についても報告しました。アトピー性皮膚炎などで使用される生物学的製剤が誘因となったと考えられる症例であり、生物学的製剤の使用は世界的に増加傾向にあることから、今後同様の症例の増加が懸念されます。

2026年ビジョン

臨床試験を行っていた強膜レンズ(ビューノ Supreme, オフテクス社)が、製造販売承認を取得しました。当会では以前より処方実績があり、「難治性の兔眼性角膜症に対して強膜レンズを処方し長期間経過観察できた症例の検討」を小島医師が角膜カンファランス2025にて報告しました。この承認により、通常のコンタクトレンズ装用が困難な患者さんへの導入ハードルが、従来より下がったと考えています。

また、培養ヒト角膜上皮細胞移植の2026年導入を目指しています。従来の角膜移植とはさまざまな面で異なるため、ハード・ソフト両面での準備が必要ですが、慢性的な国内ドナー不足の中で、患者さんに新たな治療選択肢を提供できるよう取り組んでまいります。

2026年も、最新の情報と技術を取り入れながら研鑽を重ねてまいります。お困りの症例がございましたら、角膜・眼表面グループ一丸となって精査・治療にあたりますので、ぜひお気軽にご紹介ください。



屈折矯正

医師紹介



中村 友昭 医師 小島 隆司 医師 吉田 陽子 医師 山崎 和子 医師

視能訓練士 14名

屈折矯正分野は
名古屋アイクリニックが
中心になり活動しています。

手術実績

	LASIK	LASEK	ReLEx SMILE	ICL	角膜クロスリンキング	P T K	合計
2023年	54件	71件	414件	1,232件	94件	162件	2,027件
2024年	21件	59件	369件	963件	76件	152件	1,640件
2025年	15件	64件	SMILE	924件	51件	93件	1,584件
			SMILEpro				

2025年活動報告

Report 1

ICL治療 ーより高い安全性を求めて

名古屋アイクリニックでは、ICL手術のさらなる進化に取り組んでいます。すべての手術を、国内有数のICLエキスパートインストラクター 2名が担当し、精密検査から術後まで一貫して管理しています。2025年は、トーリックICLの回転防止を目的として縦固定法を採用し、当院が開発した縦固定専用サイズ決定式がCASIA2に正式搭載されました。さらに、中村医師が開発した術後10年にわたるVault変化を解析した新しい予測式(NS式)がAmerican Journal of Ophthalmologyに掲載され、また澤木医師がESCRS Poster Awardを受賞しました。これらの成果により、術前から長期にわたる安全性マネジメントが可能となり、高い精度と快適性を両立した屈折矯正医療を実現しています。

Report 2

次世代レーザーが切り拓く SMILEpro

SMILEは世界累計1,100万眼を超える実績を持つレーザー屈折矯正手術で、角膜への侵襲が少なく、ドライアイになりにくいことが特長です。VISUMAX 800は、先代のVisuMax 500の欠点を改善した機種で、海外での結果を精査してきましたが、名古屋アイクリニックでは2025年6月に国内で初めて、この新世代レーザー「VISUMAX 800」を導入しました。VISUMAX800によって行われるSMILEpro手術では、照射時間はわずか10秒に短縮され、手術効率と角膜切開精度が大幅に向上しています。術後1週間で裸眼視力1.0以上の達成率は7割を超え、安定した視機能を確認しています。SMILE/SMILE pro症例は累計3,690眼(うちSMILE pro 210眼)を突破し、次世代スタンダードとしての地位を確立しつつあります。



SMILE pro (スマイルプロ) で
拡がる近視矯正の未来



YouTube 動画は
こちら

Report 3

レッドライト治療による近視進行抑制の新たな可能性

近視治療の新たな選択肢として注目されているのが、低出力赤色光を用いた「レッドライト治療」です。1日2回、3分間の照射を週5回行うもので、他の治療と比較して高い近視進行抑制効果を示します。低濃度アトピン点眼やオルソケラトロジーを行っても近視が進行する患者様を中心に実施しており、脈絡膜厚の増加も確認されていることから、眼内循環の改善との関連が示唆されています。竹内和徳医師は第79回日本臨床眼科学会において、名古屋アイクリニックでのレッドライト治療の初期成績を報告しました。治療開始から1年後には、約60%の患者様で眼軸長の短縮がみられ、安全性も良好であることが示されました。



治療で用いられる
Eyerising社 近視治療用機器



竹内和徳医師

2026年ビジョン

世界的に小児近視が増加する中、名古屋アイクリニックでは「科学的根拠に基づく近視進行抑制治療」を柱に、将来の見え方を守る取り組みを進めています。HOYA社のMiyoSmartやNikon社のStellestなど光学的治療の導入を計画し、近視抑制ソフトコンタクトレンズMiSightの導入も予定しています。臨床データと最新技術を基盤に、年齢やライフスタイルに応じた最適な治療を提供し、次世代の視力を支える総合的な近視治療拠点を目指してまいります。

学会・セミナー

第48回日本眼科手術学会学術総会

2025.1.31(金)

【インストラクションコース3】
有水晶体眼内レンズ(ICL)クエスチョンバンクICL後のトラブルシューティング②
レンズ交換と白内障手術

◆小島 隆司 ※オーガナイザー兼 演者

【インストラクションコース7】

白内障サーजनも必見! ICLを成功に導く実践的なコツと落とし穴
ICL術前検査 最適な度数決定、前房深度、角膜屈折力、
角膜横径など、術前検査における注意すべきポイント

◆中村 友昭

【一般講演6】屈折矯正手術「ICL(適応と制御)」

多施設におけるトーリック有水晶体眼内レンズ
ICL縦固定と水平固定の術後結果の比較◆小島 隆司、中村 友昭、北澤 世志博、五十嵐 章史、
藤本 可芳子、福岡 佐知子、市川 一夫、神谷 和孝、
常廣 俊太郎、清水 公也

【一般講演6】屈折矯正手術「ICL(適応と制御)」

前眼部OCTの垂直測定値を使用した有水晶体
眼内レンズ垂直固定用サイズ決定式の検討

◆澤木 綾子、小島 隆司、西田 知也、磯谷 尚輝、中村 友昭

【教育セミナー1】屈折矯正手術に必要な機器

フェムトセカンドレーザー

◆中村 友昭 ※座長 兼 演者

【教育セミナー6】屈折矯正手術の実践

レーザー角膜屈折矯正手術(PRK, LASIK, SMILE)

◆小島 隆司

【ランチョンセミナー1】

どう選び、どう使う? エキスパート達のプレミアムIOL活用術
実践的屈折矯正白内障手術: 多焦点IOLを
使いこなすためのキーポイント

◆小島 隆司

2025.2.1(土)

【学術展示3】緑内障「緑内障手術」

トラバクトーム360度線維柱帯切開術後の
線状スティッチ隅角画像を用いた検討◆高木 勇貴、浅野 亮、山下 寛奈、酒井 幸弘、横山 翔、
市川 慶、市川 一夫

【学術展示3】緑内障「緑内障手術」

トラバクトーム後に帯状遺残物を認め
12年間経過観察を行った一例

◆竹内 和徳、高木 勇貴、浅野 亮、星野 彰宏

2025.2.2(日)

【インストラクションコース22】屈折矯正手術の未来予想図 I
SMILE

◆中村 友昭 ※オーガナイザー兼 演者

【担当校企画5】逆境に強い内視鏡手術

逆境に強い内視鏡 内視鏡を用いた網膜硝子体手術

◆加賀 達志

【一般講演17】網膜硝子体「眼外傷および特殊な症例」

眼球破裂3症例に対する硝子体手術における
眼内視鏡の有効性

◆加賀 達志

角膜カンファランス2025

第49回日本角膜学会総会 第41回日本角膜移植学会

2025.2.21(金)

【一般口演3】角膜上皮

難治性の珥眼性角膜症に対して強膜レンズを
処方し長期間経過観察できた症例の検討

◆小島 隆司、磯谷 尚輝、澤木 綾子、中村 友昭

【ポスター1】領域1: 眞鍋賞候補

再進行により2回目の角膜クロスリンクを
施行した6例の報告

◆澤木 綾子、小島 隆司、西田 知也、中村 友昭

FUJIRETINA 2025

2025.3.29(土)

【Poster Session 2】Diagnosis/Examination

Atypical presentation of ocular toxoplasmosis
with scleritis and macular edema.

◆Taisuke Matsuda, Tatsushi Kaga

可児市眼科連携講演会

2025.4.10(木)

【講演①】

滲出性加齢黄斑変性症に対する
抗VEGF硝子体注射治療 網膜下血腫に対する
網膜下内視鏡手術で見えたもの

◆加賀 達志

【講演②】

当院での緑内障手術と診療体制

◆高木 勇貴

第129回日本眼科学会総会

2025.4.17(木)

【学術展示】緑内障: イメージング・視野・その他

虹彩屈曲度(I-Curv)の年齢階層別の検討

◆高木 勇貴、浅野 亮、山下 寛奈、酒井 幸弘、横山 翔、市川 慶、市川 一夫

Cornea China 2025 (2025角膜病学術交流会)

2025.5.17(土)

【特別講演】角膜疾患の診断と治療(*中国語=角膜疾病診療)

A New Approach to Keratoconus: Corneal Allogenic
Intrastromal Ring Segments (CAIRS)

◆小島 隆司

第16回眼科内視鏡研究会

2025.5.24(土)

飛蚊症に対してPEA+IOL+VIT術後にDysphotopsia
を訴えた症例

皆さんならどうしますか? まじ…。こんなことが起こるんだ…。

◆加賀 達志

眼内視鏡手術を始める際の注意点と習得過程について

◆岸 孟史

KOWA WEB Seminar

2025.5.29(木)

【特別講演①】

当院におけるブリザーフロマイクロシャント
手術成績の検討

◆城山 彰太

Cooper Vision
近視ルミナリーフォーラム

2025.5.31(土)

近視進行抑制の適応と選択

◆小島 隆司

SOE 2025 Congress
(European Society of Ophthalmology)

2025.6.7(土)~9(月)

【Electronic Poster】

A case of intraocular lens scleral fixation for
eye pain that developed after intraocular lens
ciliary sulcus fixation - The first observation of
ciliary sulcus destruction using an endoscope.

◆Tatsushi Kaga

HORIZON 2025 ZEISS APAC
OPHTHALMOLOGY SYMPOSIUM

2025.6.7(土)~8(日)

日本における屈折矯正手術の現状と進化するSMILEの役割:
SMILE Proのこれまでの成果と今後の展望

◆小島 隆司

第40回 JSCRS学術総会

2025.6.20(金)

【インストラクションコース4】

ICL手術 難症例の共有2025

講師 ◆小島 隆司

【一般講演5】手術成績2

ブリザーフロ®マイクロシャントとEX-PRESS®
シャントの術後角膜惹起乱視の比較

◆志賀 優、小島 隆司、渡邊 三訓、吉田 則彦

【ランチョンセミナー 4】

屈折矯正白内障手術におけるCASIA2の有用作用 PART 5

屈折矯正手術及び白内障手術におけるCASIA2の活用法

◆小島 隆司

2025.6.21(土)

【特別報告】JSCRSデータ解析委員会特別報告

白内障教育課程全国調査に対する
ご意見アンケートの結果◆田淵 仁志、神谷 和孝、小島 隆司、初坂 奈津子、
鳥居 秀成、永田 万由美、宮田 和典、林 研

【教育セミナー13】

これで安心、いざというときに役立つ屈折矯正術後の合併症
ICL術後に起きた炎症に対する診断と治療

◆小島 隆司

【一般講演8】生体計測

NK式を用いてICLサイズを決定した症例における
術後不適切vaultの関連因子の検討

◆鈴木 孝弥、小島 隆司、澤木 綾子、加賀 達志

【ランチョンセミナー 7】さらに広がる Vivinexの世界2025

ついに揃った“ジェム”シリーズ!

理想の見え方をデザインする

◆小島 隆司

2025.6.22(日)

【インストラクションコース13】New waveをキャッチせよ

屈折矯正手術・円錐角膜治療のNew wave
講師 ◆小島 隆司

【インストラクションコース14】

屈折矯正手術における検査スキルをアップデート!
ー屈折検査編ー

◆磯谷 尚輝 ※オーガナイザー兼 講師

名古屋アイクリニック主催
「第三回Cutting Edge研究会」

2025.7.12(土)

円錐角膜治療最前線 CAIRS

◆小島 隆司

HOYAジェメトリックのペアリング

◆中村 友昭

近視パンドミックの抑止力 レッドライト治療

◆竹内 和徳

第67回日本コンタクトレンズ学会総会
(フォーサム2025 横浜)

2025.7.13(日)

【基礎講座3】世界の潮流と本邦のこれからを考える

ー特殊コンタクトレンズの魅力にせまる part 2ー

強膜レンズの可能性に迫る Part 2

◆小島 隆司

日本視能訓練士協会
2025年度 専門教育プログラムII「視能検査学」

2025.7.19(土)

【講義】

屈折・収差検査

<前眼部形状検査、角膜形状解析、前眼部OCT>

◆小島 隆司

第78回東海膠原病研究会

2025.7.26(土)

メトトレキサート長期服用中に発症した

Epstein-Barr virus急性網膜壊死の1例

◆松田 泰輔、加賀 達志

The 43rd Annual Meeting of the ASRS 2025

2025.7.30(水)~8.2(土)

【POD (Papers On Demand)】

Usefulness of Ocular Endoscopy in Vitreous Surgery
in 3 Cases of Globe Rupture Due to Blunt Trauma.

◆Tatsushi Kaga

Eyerising Webinar

2025.8.19(火)

Insights from Japan: Clinical Experience with RLRL Therapy.

◆小島 隆司

第61回日本眼科学会総会

2025.8.30(土)

【ポスター1】

前眼部光干渉断層計で観察した

水晶体前面の加齢に伴う形状変化

◆馬嶋 清如、中村 友昭、磯谷 尚輝、市川 慶、
酒井 幸弘、田中 芳樹、市川 一夫

EURETINA 2025

2025.9.4(木)~7(日)

[ePoster] Medical and Surgical

Epstein-Barr virus acute retinal necrosis treated with half-dose valganciclovir, vitrectomy, and discontinuation of methotrexate.

◆Taisuke Matsuda, Tatsushi Kaga

The 43rd Congress of the ESCRS

2025.9.12(金)

[ePoster] Keratoconus and secondary ectasia

A Manual Technique For Corneal Allogeneic Intrastromal Ring Segments (Cairs) Without Femtosecond Laser.

◆Takahiko Hayashi, Yusuke Hara, Chihiro Sunouchi, Kentaro Yuda, Takashi Kojima, Naoko Kato, David Gunn, Brendan Cronin, Satoru Yamagami

2025.9.15(月)

[Free Paper Presentation] Pkacik IOLs

ICL Sizing Formula (NK-V Formula) for Vertical Fixation.

◆Takashi Kojima, Takaya Suzuki, Ayako Sawaki, Naoki Isogai, Tomoaki Nakamura

[Free Paper Presentation] Pkacik IOLs

Investigating Factors Associated with Vault Prediction Errors in the NK ICL Sizing Formula.

◆Takaya Suzuki, Ayako Sawaki, Naoki Isogai, Yuki Suzuki, Tomoaki Nakamura, Takashi Kojima

2025.9.12(金)~16(火)

[e-poster]

Prediction of Long-Term Changes in Vault Using Early Postoperative Vault in Eyes with ICL Implantation.

ポスター賞受賞

◆Ayako Sawaki, Takashi Kojima, Yasuo Sugiyama, Tomoaki Nakamura

第36回日本緑内障学会

2025.9.12(金)

[一般口演05] プリザーフロ3

プリザーフロ®マイクロシャント術後角膜高次収差の検討

◆志賀 優、小島 隆司、吉田 則彦

2025.9.14(日)

[一般口演14] MIGS2

自動隅角鏡検査を用いたiStent Inject W®の挿入深度の評価と手術影響への検討

◆高木 勇貴、浅野 亮、山下 寛奈、三輪 鮎美、酒井 幸弘、市川 慶、市川 一夫

一般社団法人メディカルスタディ協会 東海定例会

2025.10.2(木)

[招待講演]

崩壊する医療保険制度と眼科医療の生存戦略 講師◆中村 友昭

第79回日本臨床眼科学会

2025.10.9(木)

[Very Interesting Presentation 2 (VIP)]

白内障・屈折・涙液:AI・多施設解析

多焦点眼内レンズ偏位脱臼症例の多施設研究

◆松島 博之、永田 万由美、小島 隆司、森 洋斉、柴 琢也、神谷 和孝、後藤 聡、鳥居 秀成、長谷川 優実、宮田 和典

[一般講演15] 感染性ぶどう膜炎・網膜炎

バルガンシクロビル内服とメトレキサート休業によるEBウイルス急性網膜壊死の治療

◆松田 泰輔、加賀 達志

[学術展示1] 水晶体・白内障

多焦点眼内レンズ挿入眼の

眼軸長の違いによる術後裸眼視力の比較

◆古川 将也、四倉 絵里沙、鳥居 秀成、森 洋斉、後藤 聡、長谷川 優実、神谷 和孝、柴 琢也、小島 隆司、永田 万由美、松島 博之、宮田 和典、根岸 一乃

[学術展示3] 腫瘍・眼窩・眼瞼・涙器・病理・薬理

結膜腫瘍を契機に診断したEBウイルス陽性B細胞リンパ増殖性疾患

◆澤木 綾子、野口 魁斗、小島 隆司、山口 哲士

2025.10.10(金)

[インストラクションコース14]

近視の進行抑制と屈折矯正の最新線

◆小島 隆司

[一般講演25] 白内障診断 分類

前眼部光干渉断層計で観察した水晶体前面の加齢に伴う形状変化

◆馬嶋 清如、市川 慶、田中 芳樹、磯谷 尚輝、中村 友昭、市川 一夫

[学術展示6] 角結膜

地方都市におけるDemodexの生息頻度及び前眼部所見との関係性についての検討

◆稲熊 里香、高木 勇貴、小島 隆司、中村 友昭

[学術展示7] 緑内障

ケナコルトテンソン囊下注射併用

プリザーフロ®マイクロシャントの術後成績の評価

◆高木 勇貴、浅野 亮、渡邊 三訓、城山 彰太

[学術展示8] 斜視・弱視・小児眼科・神経眼科

比較的良好な経過を辿っている抗AQP4、抗MOG両抗体陽性視神経脊髄炎の1例

◆野口 魁斗、高木 勇貴、森 俊男

[学術展示10] 屈折・視機能

貫通孔付き後房型有水晶体眼内レンズ

ICL (V4c) の術後Vault変化の予測

◆中村 友昭、小島 隆司、吉田 陽子、磯谷 尚樹、杉山 康雄

[モーニングセミナー1] 白内障エビデンスクラブVol.6

多焦点眼内レンズを科学する

レーザー屈折矯正術後の多焦点眼内レンズ術後成績

◆小島 隆司

[ランチョンセミナー20]

いま伝えたい、多焦点眼内レンズの本質

TECNIS PureSee™の早期臨床経験

◆小島 隆司

2025.10.11(土)

[一般講演30] 屈折・近視

Repeated Low-Level Red-Light therapyの短期臨床成績

◆竹内 和徳、澤木 綾子、磯谷 尚輝、小島 隆司、中村 友昭

[一般講演31] 多焦点眼内レンズ

LASIK術後眼の多焦点眼内レンズ挿入症例に関する多施設研究

◆小島 隆司、松島 博之、永田 万由美、森 洋斉、柴 琢也、神谷 和孝、後藤 聡、鳥居 秀成、長谷川 優実、宮田 和典

[一般講演31] 多焦点眼内レンズ

多焦点眼内レンズの術後視力不良例に関連する因子の検討:多施設研究

◆後藤 聡、小島 隆司、森 洋斉、鳥居 秀成、松島 博之、永田 万由美、長谷川 優実、柴 琢也、神谷 和孝、宮田 和典

[モーニングセミナー16]

角膜から隅角まで PART2 広がる前眼部OCTの活用法

屈折矯正手術及び白内障手術におけるCASIA®2の活用法

◆小島 隆司

中京圏眼科病診連携セミナー

2025.10.15(水)

[講演]

滲出性加齢黄斑変性症に対する抗VEGF硝子体注射治療網膜下血種に対する網膜下内視鏡手術で見えたもの

◆加賀 達志

[講演]

JCHO中京病院の眼内ドレーン挿入術と

緑内障インプラント手術の現状

◆渡邊 三訓

2025 HOYA Multifocal IOLウェビナー

2025.11.13(木)

あなたなら何を選ぶ?多焦点IOL診療の本音教えます

ベアリングの臨床成績と多焦点カウンセリングの本音

◆小島 隆司

The 14th Dalian International Ophthalmology Forum 2025

2025.11.15(土)

China-Japan Innovation and Development Forum Endoscope-assisted Vitreous Surgery in Retinal Detachments.

◆加賀 達志

STAAR SURGICALこれだけは押さえて! ICLサージャンのための虎の巻

2025.11.27(木)

ICLの基礎と有用性

◆小島 隆司 ※座長 兼 講師

ドライアイ研究会e ラーニング2025 冬~臨床ですぐに役立つドライアイ診療と治療~

オンライン配信:12.2(火)~12.8(月)

白内障手術とドライアイ

◆小島 隆司

原著論文

Clinical Ophthalmology

Reproducibility and Screening Capability of Corneal Epithelial Thickness Measurement for Keratoconus Using Anterior Segment Optical Coherence Tomography.

◆Taro Oshika, Ayako Sawaki, Tomoya Nishida, Tomoaki Nakamura, Takashi Kojima

Clin Ophthalmol. 2025 Jun 30;19:2057-2065. doi: 10.2147/OPHT.S528630.

Clinical Ophthalmology

Comparison of IMO vifa24plus (1-2) and Humphrey Field Analyzer 24-2.

◆Yuki Takagi, Ryo Asano, Kanna Yamashita, Yukihiro Sakai, Sho Yokoyama, Kei Ichikawa, Kazuo Ichikawa

Clin Ophthalmol. 2025 Jan 30;19:301-307. doi: 10.2147/OPHT.S506059.

PLoS One

Evaluation of visual function within the central 10 degrees using IMOvifa™ 24plus (1-2).

◆Yuki Takagi, Ryo Asano, Kanna Yamashita, Yukihiro Sakai, Sho Yokoyama, Kei Ichikawa, Kazuo Ichikawa

PLoS One. 2025 May 12;20(5):e0323630. doi: 10.1371/journal.pone.0323630.

PLoS One

Comparison of angle-closure detection between automated gonioscopy and anterior-segment optical coherence tomography.

◆Yuki Takagi, Ryo Asano, Yui Morioka, Yukihiro Sakai, Sho Yokoyama, Kei Ichikawa, Kazuo Ichikawa

PLoS One. 2025 Sep 15;20(9):e0332590. doi: 10.1371/journal.pone.0332590.

Journal of Clinical Medicine

Evaluation of the Insertion Depth of the iStent Inject W and Its Association with Surgical Outcomes

Using Automated Gonioscopy.

◆Yuki Takagi, Ryo Asano, Kanna Yamashita, Ayumi Miwa, Yukihiro Sakai, Sho Yokoyama, Kei Ichikawa, Kazuo Ichikawa

J. Clin. Med. 2025, 14 (21), 7547; https://doi.org/10.3390/jcm14217547 (registering DOI)

Clinical Case Reports

Recurrent Anterior Chamber Migration of Intravitreal Triamcinolone Following Scleral-Fixated IOL Implantation.

◆Yuki Takagi, Sho Yokoyama, Kazunori Takeuchi

Clin Case Rep. 2025 Oct 31;13(11):e71102. doi: 10.1002/ccr3.71102

American Journal of Ophthalmology

Vault Decay Prediction Formula for Posterior Chamber Phakic Intraocular Lens with Central Hole Implantation: A 10-year Follow-up Study.

(貫通孔付き後房型有水晶体眼内レンズICL (V4c) の術後Vault変化の予測~ICL手術の安全性マネジメントにおける数理モデルの体系化)

◆Tomoaki Nakamura, Naoki Isogai, Takashi Kojima, Yasuo Sugiyama, Yoko Yoshida

DOI: 10.1016/j.ajo.2025.10.030

Clinical Ophthalmology

Investigation of Age-Related Changes in Iris Curvature Among Japanese Participants.

◆Yuki Takagi, Ryo Asano, Kanna Yamashita, Yukihiro Sakai, Sho Yokoyama, Kei Ichikawa, Kazuo Ichikawa

Clin Ophthalmol. 2025;19:4493-4503 DOI: 10.1016/j.ajo.2025.10.030

Journal of Clinical Medicine

Phenotypic Analysis of Intentionally Created Monocular Visual Field Defects During Bilateral Randomized Visual Field Testing Using the imo Vifa®.

◆Yuiko Kawaguchi, Yuki Takagi, Takashi Kojima, Akeno Tamaoki, Tatsushi Kaga

J Clin Med. 2025 Dec 19;15(1):9. doi: 10.3390/jcm15010009

総説・解説等

眼科診療エッセイ

最新 眼科診療トラブルシューティング pg.334-338

Chapter 11 手術室でのトラブルシューティング(3)

白内障手術<11.5> IOL二次挿入

◆松田 泰輔

あたらしい眼科 42巻5号 pg.591-592

屈折矯正手術セミナー スキルアップ講座:

前眼部OCTを用いた最新のICLサイズ決定方法

◆中村 友昭

IOL & RS 39巻2号 pg.218-223

白内障・屈折手術の論点 エキシマレーザー派 vs KLEX派LASIKと比較したKLEXの利点・欠点

◆小島 隆司

あたらしい眼科 42巻7号 pg.865-866

屈折矯正手術セミナー スキルアップ講座:ICL術後の眼内炎

◆小島 隆司



眼科三条会
Ophthalmic Sanjo Group